

商業専門高等学校としての教育活動の充実の方向性について

(答 申)

平成25年2月

高校教育充実に向けた有識者会議

秋田商業高等学校は、「感謝、勤勉、鍛錬」の校訓の下、文武両道の伝統校として、社会人としての基礎的な能力をはぐくむことを目的とした「ビジネス実践」の充実を図るとともに、国体やインターハイ等において、優秀な成績を収めてきた部活動の指導により、これまで、専門的な知識や技能を身に付けた有為な人材を県内外に輩出している。

本会議では、少子化の影響により、本県の高等学校の統廃合や学級減が進む中、平成25年度からは、本校が県内唯一の商業専門高等学校となることを踏まえ、これまでの取組の成果や課題を検証し、時代の要請に応える商業教育をめざし、専門性や独自性を生かしたカリキュラムのさらなる充実の方向性等について審議した。

これまでの審議を踏まえ、本校が、商業専門高等学校として教育活動の一層の充実を図ることができるよう、次のとおり答申する。

平成25年2月

高校教育充実に向けた有識者会議

1 カリキュラム充実の方向性について

【現状】

社会にとって有為な人材を育成するため、生徒の進路希望に即して、会計コース、流通経済コース、情報コースの各コースを設定して専門教科の指導の充実を図るとともに、「ビジネス実践」をとおして社会人としての基礎的な能力をはぐくむなど、キャリア教育の視点による教育活動を推進している。

このような現状を踏まえ、県内唯一の商業専門高等学校としての一層の充実を図るため、カリキュラムの方向性や具体的な内容について審議した。

(1) 教科指導の充実

コミュニケーション能力や情報発信力など、キャリア発達に関わる諸能力との関連を意識して教科指導の充実を図る。

社会が求める即戦力としての資質・能力を吟味し、生徒一人一人の学習状況や進路希望に応じることができるよう、専門的な資格取得を含めた各コースにおける指導内容の充実を図る。

(2) 「ビジネス実践」の充実

夢や希望、志をはぐくむとともに、体験をとおして、規範意識や倫理観および起業やビジネス、商品開発等への意欲を高めながら、職業人としての資質や能力を身に付けさせることができるよう、教科等で培った能力の定着状況等を検証する機会として、取組のさらなる充実を図る。

(3) 「秋商スタンダード」の推進

商業専門高等学校としての特色をさらに明確にするため、現在の「秋商スタンダード」に、「交渉力」や「プレゼンテーション能力」など、生徒に身に付けさせたい力を精選して付け加え、教員の共通理解の下、指導の充実を図る。

(4) 外部機関等との効果的な連携の推進

地元企業等との連携による長期間にわたるインターンシップの実施、および地域との連携によるボランティア活動の推進など、生徒に自己有用感をもたせ、望ましい勤労観・職業観を養うための取組の充実を図る。

起業した経営者による講話など、企業等で活躍する人材を積極的に活用するとともに、生徒の発想や意見を商品開発やまちづくりに生かす機会の設定、およびマーケティングに関する実践など、生徒が、実社会との結びつきを実感す

ることをとおし、学習への満足感や達成感が得られるよう指導内容を工夫する。
大学との連携により、専門的な知識や技能を有する教員や学生等との交流をとおし、英語によるコミュニケーション能力や商業デザイン分野に関わる能力などを高めることができるよう指導内容を工夫する。

(5) 部活動の充実

生徒が、一つの目標に向かい、集団生活の中で、互いに励まし合いながら協力して活動することをとおして、心身を鍛え、豊かな人間関係を構築するとともに、責任感や連帯感などを養うことができるよう、学校教育の一環として、教育課程との関連を図りながら、取組の一層の充実を図る。

専門的な知識や技能を有する外部指導者などとの協力や、校外の各種関係団体等との連携など、運営上の工夫を行う。

心身の両面からバランスのとれた成長を促すという観点から、栄養面や健康面などに配慮した指導の充実を図る。

(6) 教育活動の検証の工夫

生徒を雇用した事業所等や、進学または就職した卒業生の声を定期的に集約するなど、卒業後の状況についての追跡調査を行い、教育活動の検証と改善・充実を図る。

2 本校の教育活動に関する県内の中学生および市民等への周知について

【現状】

本校の教育活動や生徒の活躍等を広く市民、県民にアピールするため、これまで、ホームページの定期的な更新、体験入学および「ビジネス実践」等における小・中学生や市民との交流、マスメディア等への積極的な情報提供に取り組んできている。

このような現状を踏まえ、県内唯一の商業専門高等学校として、目的意識をもった優れた人材が全县から集まるよう、教育内容や生徒の活躍などに関わる情報提供の在り方について審議した。

(1) 本校のよさを伝えるための方策についての検討

「キッズビジネスタウン」における小学校との連携や「AKISHOP」での市民との交流などの取組の成果を踏まえ、県内の中学生が高校生との交流をとおして、本校の教育活動について理解を深めることができるようにするなど、本校のよさを伝えるためのプログラムを開発する。

これまでと同様、メディア等を積極的に活用した情報発信に取り組むとともに、同窓会やPTA等のネットワークを効果的に活用する。

3 教員の資質向上のための研修の充実について

【現状】

本校では、生徒指導の充実を図るとともに、生徒の進路や学習状況に応じたきめ細かな教科指導をめざし、授業改善の取組を推進するため、教務部と研修部の連携により校内研修の充実に努めている。

このような現状を踏まえ、専門的な知識や技能を身に付けた有為な人材を育成するための授業改善に関わる研修の方向性について審議した。

(1) 授業改善の視点の共通理解

学習に関する生徒の実態調査や授業アンケート等の分析結果に基づき、思考力、判断力、表現力など、生徒に身に付けさせたい資質や能力を明確にし、授業改善の視点について共通理解を図る。

(2) 授業研究の機会の拡充

教科・科目の枠組みを超え、教員が互いの授業を参観し合いながら、実践をととして組織的に授業改善に取り組むことができるよう、授業研究の機会の拡充を図る。

4 付帯事項

なお、本会議で出された意見・要望を付帯事項として以下に記載する。

県内唯一の商業専門高等学校として、目的意識をもった優れた人材を全県から集めるため、例えば、独自に学生寮を設けるなど、施設設備等の充実の方向性についても検討する必要がある。

生徒のニーズを把握し、本校で学びたいという意欲をさらに高めることができるよう、「国際経済コース」など、コースや領域等の名称について検討する必要がある。

平成24年度高校教育充実に向けた有識者会議委員

座長	佐藤修司	秋田大学教育文化学部教授
座長代理	秋山肇	元秋田県立新屋高等学校長
委員	柴田昭二	元秋田市立秋田商業高等学校長
委員	佐藤公之	秋田市PTA連合会副会長
委員	有田正司	株式会社花徳 代表取締役社長
委員	佐藤正明	有限会社 佐藤養助商店 代表取締役
委員	伊藤雅和	秋田県教育庁高校教育課指導班副主幹(兼)班長